

授業科目(ナンバリング)	福祉特論 C(DG306)			担当教員	大島 啓・裊 孝承		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本講義における授業のねらいは、社会福祉の哲学、思想の学問的体系を理解し、社会調査や統計データから現状を深めることである。ディプロマポリシーに掲げられる社会に対する理解力、思考力を身に付け、人権思想の発展や社会事情を熟考することで、社会福祉の改革等に主体的に取り組む力を養成する。そのため専門図書や社会調査のデータを用いて、社会福祉政策を支える哲学、倫理、アクションについて知識を獲得できる。							①②③ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	近代国家と基本的人権の理論的背景について理解できる。社会調査を理解し、実際に行うことができる。				定期試験 課題レポート	40% 40%	
情報収集、分析力	イギリス市民革命前夜のエリザベス救貧法の時代背景について情報収集し分析を行うことができる。				・課題レポート ・リアクションペーパー	10% 10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験を論述形式で実施する（評価比率 40%）。評価は、適正な時代認識、近代国家と基本的人権の理論的背景、社会福祉の職業倫理、社会調査の基礎についての理解を見る。課題レポート（評価比率 50%）で、人権視点から社会を考察できるか、社会調査を実施できるかを評価し、リアクションペーパー（評価比率 10%）で、授業で紹介した内容の理解度を評価する。必要に応じて、ポートフォリオを活用してフィードバックを行う。							
授業の概要							
講義の進め方はテキストと配布資料を用いて行う。人権思想の理解と社会調査の理解をテーマに、社会福祉学の生成、ソーシャルワークと結びつけて授業を展開する。そのため、アクティブ・ラーニングとして授業内で学生同士の意見交換の機会、演習型授業を設ける。授業で用いた資料は予復習用にポートフォリオのコンテンツに掲載する。また、講師の話す講義内容をノートに記録すること。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：関家新助 「社会福祉の哲学」中央法規（2011） 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集）（2021）『社会福祉調査の基礎』中央法規 参考書：岡村重雄 「社会福祉原論」全国社会福祉協議会（2001） 指定図書：関家新助 「西洋哲学思想と福祉」中央法規（2004）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
テキストを事前に読み予習を行うこと。復習時は講義内容について自ら調べなおし、ポイントを整理して理解を深めること。高校の世界史の教科書などを復習しておくことも学習を進める上で役にたつ。また、後半の社会調査では、社会の様々な統計データを理解するため、マスメディアなどの調査結果などにも関心をもってほしい。授業で紹介した文献等は図書館等で調べて主体的に理解を深めて欲しい。そのためにも板書や講義ではノートを取り整理しておくこと。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本授業のねらいおよび評価方法などを知る。また、授業の全体的な内容について理解する。(大島、表)	予:シラバスを読む 復:配布資料を復習する。
2	人権思想の確立 (1)	人権の概念について、法的、道徳的、思想的観点から理解できる(大島)。	予:人権の歴史的背景について調べる。 復:配布資料を復習する。
3	人権思想の確立 (2)	人権の思想を持たない国家、人間について考え、知識を得ることができる(大島)。	予:人権について調べる。 復:体系的にノートにまとめる。
4	人権思想の確立 (3)	高等学校の世界史の教科書から人権思想を振り返り、時代認識を確立できる(大島)。	予:教科書を調べる。 復:思想についてノートにまとめる。
5	人権思想の確立 (4)	人権の発見について、その変遷を理解できる(大島)。	予:変遷を調べる。 復:人権思想の歴史家をノートにまとめる。
6	人権思想の確立 (5)	奴隷制度、人身売買など今日的な人権問題や課題について理解できる(大島)。	予:奴隷制度を調べる。 復:人権問題を考え整理する。
7	人権思想の確立 (6)	アドボカシーとヒューマンライツの違いについて理解できる(大島)。	予:権利擁護を調べる。 復:代弁についてまとめる。
8	人権宣言	ルネッサンスから受け継がれてきた「人権の普遍性」について理解できる(大島)。	予:伊の思想を調べる。 復:ルネッサンス芸術をネットで調べる。
9	社会調査とは	社会調査の概要とその必要性について学ぶ (表)。	予: シラバスの熟読と科目イメージの形成。 復:教科書 1-9 頁
10	社会調査のデータを読む	多様な社会調査データを用い、その内容と意味について学ぶ (表)。	予: 調査データを読む。 復: 社会調査を整理する。
11	社会調査のデザイン	社会調査の考え方と論理について学ぶ。また、量的調査の概要及び種類、母集団を理解する (表)。	予:教科書 21-40 頁、55-62 頁。 復:社会調査を整理する。
12	社会調査(量的)の実際①	質問項目の留意点について学び、質問項目を作成する (表)。	予習:教科書 63-108 頁、関心あるテーマを決める。 復習:小テストの準備
13	社会調査(量的)の実際②	調査票(アンケート)を作成する (表)。	予:必要な項目を考えてくる。 復:アンケートをまとめる。
14	社会調査(量的)の実際③	調査票(アンケート)を精査し、実施する。また、その統計結果(単純集計)のプレゼンテーションを準備する (表)。	予:アンケートを完成してくる。 復:アンケートをまとめる。
15	発表とまとめ	ご自身の調査データをまとめて発表する (表)。	予:発表準備。 復:フィードバックをもとにご自身の発表を振り返る。
16	定期試験		